

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒一人ひとりの人権を尊重し、生徒全員の就労を通じた社会自立をめざした教育を推進することにより、「社会に貢献できる人材の育成」と「心豊かに自己の生活を充実していくことができる人間の育成」をめざす。

地域や関係機関との連携を深める中で、高等支援学校として、時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、高い就労率と高い定着率をめざす。

- 1 個々の生徒の持てる力を最大限に発揮できる教育実践を行い、一人ひとりのニーズに対応した充実した「進路学習と進路指導」を行うことにより、生徒全員の就労と社会自立をめざす。
- 2 高等支援学校の教員としての高い専門性をもって、継続的系統的にキャリア教育を行い、生徒の社会的自立へのチャレンジを支援する。
- 3 地域や関係機関との連携を深め、地域にある社会的資源をより有効に活用する中で、生徒の豊かな社会体験をはぐくみ、主体的に社会に貢献できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

- 1 「集団指導」と「個別指導」を有効かつ適切に行い、就労を通じた社会自立を見据えた教育活動の充実を図る。
  - (1) 1 年次より、学年集団をベースとした、適切な「集団指導」を継続的に行い、生徒指導の充実を図るとともに社会のルールを自覚させる。
  - (2) 「個別の指導計画」をベースとした「個別指導」を適宜行い、就労に向けた社会性の育成に努める。
  - (3) 課題のある生徒の課題解決に向けて、学校外の専門家や地域の関係機関と連携協力し、適宜「ケース会議」を開き、生徒を支援していく。
  - (4) 情報発信を含めた進路学習、進路指導の充実を図る。
- 2 各教科、各職業学科の取り組みにおいて授業力向上をさらに推し進め、高等支援学校教員としての資質の向上をめざす。
  - (1) 年間指導計画を含んだ「シラバス」の再構築及び毎授業時間における「授業略案」の作成により、計画的な授業を推進する。
  - (2) 全教員の授業力向上と高等支援学校教員としての専門性向上、ミドルリーダーの育成。
  - (3) 本校独自の系統的なキャリア教育のさらなる充実をめざす中で、教育課程を引き続き見直す。特に、学科の充実を図ることを主眼とする。
- 3 地域社会とより広く連携し、社会参加により生徒の自己肯定感を高める中で一層の自立心を育成する。
  - (1) 交流・共同学習の充実 <近隣の高校 摂津支援との連携>
  - (2) 地域への積極的な情報発信も含め、地域との連携事業の充実 <公民館・淀川河川事務所>
  - (3) 職場開拓を積極的に進め、生徒のニーズや持てる力に見合った企業とのマッチングに努める学校をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【課題点】</b></p> <p><b>授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が学習形態の工夫・改善を行っている項目の評価は高いが、生徒、保護者が授業がわかりやすいという評価が低くなっている。授業毎に授業の目的を明確に生徒に伝える等、授業の工夫をしていく。</li> <li>・プランナー（授業を主に計画する）教員と他の授業の教員が授業の際より連携して、授業の進め方、役割や動きを見直す。</li> </ul> <p><b>教育相談</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問項目の「～なんでも相談できる」「～気軽に相談できる先生がいる」は、教員との関係性だけでなく、他者に「なんでも」「気軽に」は相談したくない、できないという個々の生徒の性格もあるのでは。</li> <li>・問題のある生徒だけでなく、おとなしい生徒や相談しづらい生徒のケアが必要。（定期的な生徒との懇談など）</li> </ul> <p><b>危機管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練で各クラスの教員が生徒の動きを指導できている。</li> <li>・保護者に対しては引き渡し訓練で学校の意図を伝えることができた。実際に地震が起こった時にすぐメールを活用できた。</li> <li>・個人情報の適正な管理を徹底している。特に個人情報を含む内容の文書を配付する時は、確認体制を徹底する等誤配付防止に努めている。</li> </ul> <p><b>【分析】</b></p> <p>①わかりやすい授業づくり</p> <p>授業で何を学ぶのかを明確に伝える工夫をする等、生徒が主体的に授業が受けられるようにする。また、チームティーチングしている効果を発揮できるように、教員間の連携を高めるようにしていく。</p> <p>②進路指導の充実</p> <p>生徒は進路についての情報を知る機会があることや将来の進路や生き方について考える機会があることに肯定的にとらえている。教員は生徒の個別のニーズに答えられるように、常々企業開拓や、情報収集に努めている。今年度 2 期生を卒業させる。在学中の指導だけでなく、卒業後の進路の定着を踏まえた指導・支援ができるように進路の取り組みをより充実させていく。</p> <p>③学校全体の教員力の向上</p> <p>教員個々の取り組みへの意識は高く、生徒が安全安心に学校生活を送ることができるように取り組んでいるとともに、連絡帳等を通じて保護者への情報提供に心掛けている。その力を学校全体の力になるよう、研修受講者の校内への情報提供の機会、学校全体で課題を考える機会等を作り、学校全体の取り組みを全員で意識して実践ができるようする。</p>	<p><b>【第 1 回 7 月 8 日】</b></p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度「本校の学校経営計画」について</li> <li>・平成 29 年度使用教科書選定について</li> <li>・授業参観アンケートについて</li> <li>・1 期生の進路状況について</li> </ul> <p>協議内容</p> <p>（校長）就労するだけでなく、働くことの喜びを感じられるような支援をしていきたい。中期的目標は生徒、教員、地域の 3 つの観点で考えている。挨拶をしっかりと、規則正しい生活、簡単なようだが大きな課題である。また、それぞれの子どもの状況に応じた課題設定が大切である。本日の PTA で教員の言語環境の整備について府への要望があがっており、とりかいても注力していきたい。（委員）今年 4 月からの障がい者差別解消法の施行にともない、合理的配慮という文言を入れてはどうか。（委員）情報関係の機器の使用方法等について、先生の研修は計画的に行われるか。（委員）学校経営計画にあるアフターケアの在り方について、障がい者就業・生活支援センターとの関係はどうか？学校は 3 年間のつながりがある。アフターケアにも力を入れていくべきではないか。（事務局）スムーズに就労が進む生徒は早めに障がい者就業・生活支援センターとつなげることができるが、ぎりぎりの生徒は不十分なつながりになってしまう。昨年度は 1 3 自治体の障がい者就業・生活支援センターと関わっている。夏までに卒業生全てを回り切れていない。旧担任にも協力してもらい、夏休みを利用して回り切る予定である。</p> <p><b>【第 2 回 10 月 28 日】</b></p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度「本校の学校経営計画」進捗状況</li> <li>・各学年の進路の取り組みについて（進路指導部）</li> <li>・授業参観アンケートの結果について</li> <li>・平成 28 年度学校教育自己診断（案）について</li> </ul> <p>協議内容</p> <p>（委員）生徒の遅刻に触れて、原因は何かをさぐり、対応をしているのか。（事務局）遅刻が増えた時は昨年度、生徒に指導した。バスの延着証明で遅れる生徒への指導も早いダイヤに変えるように指導している。（委員）家族の送り出しの協力が就労してから必要ではないか。（事務局）遅刻が続く生徒には振り返りシートを持ち帰らせ、保護者にも伝えている。（委員）定時という感覚は何時に入ればいいのかという意識である。就労をめざすなら、学校時代から、始業時間に間に合わせる意識をつける必要がある。会社では、延着証明で許されるわけではない。その意識を日頃の学校生活から意識させないとだめだと思う。</p>

【第3回 2月2日】実施

協議事項

- ・進路の状況について
- ・平成28年度「学校教育自己診断」分析結果について
- ・学校祭のアンケートについて
- ・平成28年度「学校経営計画及び評価」について

協議内容

(事務局)「学校教育自己診断」回収率は 生徒 90.4% 保護者 90.3% 教職員 100%であった。(委員)性に関する学習はどのような内容か。(事務局)年に3回、性に関する指導委員会でたてた年間計画をもとに実施している。(委員)自立活動の内容を十分理解して、その内容に従って目標をたておこなっていただきたい。他の教科と自立活動の関係、自立活動を意識した教科活動をしてください。(事務局)横断的、系統的にできるようにシラバスの見直しが必要と考えている。(委員)卒業後のアフターケアについて 将来的にいつまで続けられるのか。離職の時の対応、相談について、保護者が亡くなられた時など アフターケアをどのようにとらえているのか。(事務局)今年度夏休みまで1回、夏休み中1回おこなった。いつまでおこなうかはさぐっているところで、各企業との関係で変わるが、基本的には何か学校に問い合わせがある場合は動こうと考えている。(委員)学校祭の集客が少なかった。それにむけての努力をしていただきたいと思った。(事務局)PRの仕方をさぐっている。摂津支援に声かけも必要。単独開催になったことで教育課程に位置付けて、舞台発表の企画書等の作成など生徒の自主性をうながす取り組みができるようになったのは良い点である。一般の方の見学を来年度は朝から入場可能にする予定。(委員)地元の人へのPRは、パンフレット配布を自治会に言っていたら貼出す。地元としては学校がどうなっているか知らない、災害の避難場所にもなっているので1回見に行こうとなるとよいと思っている。(委員)アビリンピックに出場していていい結果を出しているので書いた方がいい。触れていないのはもったいない。(校長)来年度の経営計画に入れる

## 府立とりかい高等支援学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1、就労を通じた社会自立を見据えた教育活動の充実	<p>(1) 1年次より、学年集団をベースとした、適切な「集団指導」を継続的に行い、生徒指導の充実を図るとともに社会のルールを自覚させる。</p> <p>(2) 「個別の指導計画」をベースとした「個別指導」を適宜行い、就労に向けた社会性の育成に努める。</p> <p>(3) 課題のある生徒の課題解決に向けて、学校外の専門家や地域の関係機関と連携協力し、適宜「ケース会議」を開き、生徒を支援していく。</p> <p>(4) 情報発信を含めた進路学習、進路指導の充実を図る</p>	<p>(1) ア、遅刻指導、服装指導、頭髪指導、安全指導等、就労に向けて規則正しい生活習慣を身に付けるため充実した生徒指導等を日常的・継続的に行う。</p> <p>(2) ア、個別指導を主として、適宜指導を行っていく。 ※生徒への指導だけではなく、家庭事情等も勘案し、保護者支援あるいは、家庭支援も、積極的に行い課題解決に努める。 イ、生徒自らが相談しやすい雰囲気づくりに努める。</p> <p>(3) ア、外部人材の活用を積極的に進める。 外部機関と連携のもと、「ケース会議」を適宜開き、事案解決と生徒育成、また家庭支援も図る。</p> <p>(4) ア、生徒への進路学習の充実 イ、生徒、保護者への進路情報の十分な発信 ウ、進路説明会等の充実（説明会、懇談会、企業見学会の開催）</p>	<p>(1) ア・年間遅刻回数、前年度からの半減。 ・1年生を中心とした課題表の作成 ・迅速な報連相による情報共有の徹底</p> <p>(2) ア、特別な「生徒への個別指導」の件数 H28年度目標値3件以下 イ、生徒が相談しやすい環境に努め、「学校教育自己診断」中の質問への肯定的評価を、70%以上とする。</p> <p>(3) ア、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの招聘。 福祉医療人材活用制度の利用 スクールカウンセラー50時間 SSW スクールソーシャルワーカーの導入実現。</p> <p>(4) ア、企業、先輩OBを講師とした進路講演会の実施（2回以上） ・ICTを活用した教育の充実により豊富な進路情報を取得する。 イ、掲示板の整備による情報提供 ウ、年間5回以上</p>	<p>(1) ア・バスの延着証明で遅れる生徒への指導も早いダイヤに変えるように指導し年間遅刻回数、前年度から減らした。例：平成27年度1年のべ207回→平成28年度1年のべ65回、2期生H27年度20人のべ302回→2期生H28年度11人のべ233回等&lt;○&gt; ・1年生で「学校生活振り返りシート」を作成し、毎月自己を振り返り機会を作った。&lt;◎&gt; ・学年、生徒指導部を中心に迅速な報連相による情報共有の徹底。管理職連絡会の新設による情報共有機会の充実&lt;○&gt;</p> <p>(2) ア、特別な「生徒への個別指導」の件数は12件。3件以下ではなかったが報連相の徹底により内容が軽微なうちに早期の対応、指導に努めることができた。&lt;○&gt; イ、生徒が相談しやすい環境に努め、「学校教育自己診断」中の質問への肯定的評価58%。&lt;△&gt;</p> <p>(3) ア、福祉医療人材活用制度の利用をし、スクールカウンセラーの相談の機会を10回（50時間）行う。&lt;○&gt; SSW スクールソーシャルワーカーを今年度導入し、6回活用。課題のある生徒に関する事例検討を行った。&lt;○&gt;</p> <p>(4) ア、企業、先輩OBを講師とした進路講演会の実施（4回&lt;○&gt;） ・進路の学習等にICTを活用し、豊富な進路情報を取得。&lt;○&gt; イ、進路室前に進路関係資料の掲示等により情報提供。&lt;○&gt; ウ、各学年の保護者懇談会、見学会等6回実施。&lt;○&gt;</p>
2、高等支援学校教員としての資質向上	<p>(1) 年間指導計画を含んだ「シラバス」の再構築及び毎授業時間における「授業略案」の作成により、計画的な授業を推進する。</p> <p>(2) 全教員の授業力向上と高等支援学校教員としての専門性向上、ミドルリーダーの育成。</p> <p>(3) 本校独自の系統的なキャリア教育のさらなる充実をめざす中で、教育課程を引き続き見直す。特に、学科の充実を図ることを主眼とする。</p>	<p>(1) ア、年間指導計画及び、「ねらい」と「目標像」が明確に記された、「シラバス」の作成。 イ、教育課程の約半分を占める「職業」に関する学科や科目について、充実した教育実践を行うために教材教具の整備 ウ、教材教具の整理整頓を含めた校内美化を進め整備された環境で授業を実施する。</p> <p>(2) ア、研究授業実施 イ、新転任、経験の少ない教員等の企業職場体験実習実施 イ、高等支援学校教員としてのビジネスマナー、プレゼンテーションスキル、法令や福祉制度に関する基礎知識等の習得 ウ、研修体系の構築に向けて検討 エ、授業アンケートの実施</p> <p>(3) ア、「とりかい版」キャリアプランニングマトリックスの作成により、本校独自の3年間の系統的なキャリア教育の充実をめざす。とりかいの職業教育を中心とした教育課程の課題の検討と学科のさらなる充実に向けた検討を行う。</p>	<p>(1) ア、本年度の「シラバス」を更にクオリティーの高いものにする。 確認作業を行い不十分なものをチェックし各教科担当者（シラバス担当者）が、修正版を首席・教頭に提示する。 イ、農園の整備等 教材教具の整備 ウ、校内美化、整美</p> <p>(2) ア、初任者年3回、他教員年1回実施。 初任者を中心とした経験年数の少ない教員を中心に、外部講師の招聘を年に6回行い指導助言を受ける。 イ、初任者3人を含み5名程度の教員で実施。 ウ、研修会、伝達講習を実施 エ、段階別研修システムの検討 オ、年2回実施</p> <p>(3) ア、首席会と教育課程検討委員会をメインとして、本校版のキャリアプランニングマトリックスの作成に向けて動き出す。</p>	<p>(1) ア、各教科・学科の会議において、本年度の「シラバス」の内容を見直し、来年度の学習に活かすよう修正等を行っている。&lt;○&gt; イ、苗の育成、管理のための温室の整備、ハーブ園、果樹園、農園の整備を行い、「食とみどり科」の学習内容の充実を図った。&lt;◎&gt; ウ、共用の教室については摂津支援学校と連携し、校内美化、整備。&lt;△&gt;</p> <p>(2) ア、初任者年の教員は年3回、他教員は年1回研究授業を実施。外部講師の招聘を年4回行い、放課後研究協議を行い、指導助言を受ける。&lt;○&gt; イ、初任者3人を含み5名程度の教員で実施。&lt;◎&gt; ウ、研修会参加者や管外出張者による伝達講習を実施。&lt;○&gt; エ、進路に係るミニ研修会等を行った。今後の段階別研修システムの検討要。&lt;△&gt; オ、授業アンケートを7月、12月の年2回実施&lt;○&gt;</p> <p>(3) ア、教育課程検討委員会において本校版のキャリアプランニングマトリックスの作成に向けて検討をし始めた。&lt;△&gt;</p>

## 府立とりかい高等支援学校

<p>3、地域・関係機関との連携強化</p>	<p>(1) 交流及び共同学習の充実</p> <p>(2) 地域への積極的な情報発信も含め、地域との連携事業の充実</p> <p>(3) 職場開拓を積極的に進め、生徒のニーズや持てる力に見合った企業とのマッチングに努める学校をめざす。</p>	<p>(1) ア、共生推進教室との交流も図り共同学習をめざす。またスポーツクラブを中心とした交流を実施することで本校生徒のスポーツ技量向上めざし、余暇活動の充実につなげる。 ア、摂津支援小学部へ本校の生活科学所属生徒が、「保育」関連授業として、交流を行う。</p> <p>(2) ア、地域への情報発信 イ、地域交流として、地元公民館との交流。 ウ、淀川河川事務所とタイアップした地域支援。 エ、「食とみどり」学科の地域特選野菜(大阪もん野菜)の栽培で摂津市との交流。</p> <p>(3) ア、職場開拓は、本校の恒常的な業務と捉え、教員全員が、「進路担当者」の自覚を持つ。 イ、本校 AP の深く広い浸透を図るとともに、持続的・継続的に就労率向上と職場定着率向上をめざす。</p>	<p>(1) ア、共生推進校との交流及び共同学習2回以上。 共生推進校(北摂つばさ高校)とのクラブ交流2回以上。 イ、摂津支援との交流は、本年度2回以上。</p> <p>(2) ア、自治会への学校だよりの発行 昨年度3回→今年度9回以上 ・オープンスクール、学校説明会の実施 企業対象説明会の実施 イ、地元公民館(鳥飼上公民館)との「江州音頭」の交流。1回以上。 ウ、淀川河川事務所と「アドプト花壇」における地域支援。年間3回以上。(学期に1回以上) ・摂津市主催「わいわいがやがや祭り」への参加。(来年度教育課程に位置付けより充実した取り組みになるよう検討) エ「食とみどり」学科の「とりかいナス」の栽培で、摂津市との交流。「ナス」品評会での上位入賞。</p> <p>(3) ア、職場開拓数として、50社以上の職場開拓。 昨年までの開拓企業の実習実施状況等の確認 イ、就労率は、本校生徒(32名)の80%。 就労後、1年後の職場定着率も100%をめざし、その実績を向こう3年間維持できるような学校をめざす。</p>	<p>(1) ア、共生推進校の文化祭において、交流及び共同学習2回実施。&lt;○&gt; 共生推進校(北摂つばさ高校)とのクラブ交流について検討した。共生推進校(北摂つばさ高校)の生徒の希望者は本校の部活動に参加。&lt;○&gt; イ、「生活科学科」の授業において摂津支援学校の小学部との交流を2回実施。&lt;○&gt;</p> <p>(2) ア、自治会への学校だよりの発行9回以上発行。&lt;○&gt; ・オープンスクールを3日間、学校説明会2日間実施。&lt;○&gt; 企業対象説明会「とりかい見学セミナー」を実施し、企業20社が参加し、その後生徒の体験実習につながる企業もあった。&lt;◎&gt; イ、地元公民館(鳥飼上公民館)との「江州音頭」の交流を2回実施。&lt;○&gt; ウ、淀川河川事務所と「アドプト花壇」における地域支援を年間7回実施したが、今後はより連携を強める中で充実した活動内容で取り組んでいきたい。&lt;○&gt; ・摂津市主催「わいわいがやがや祭り」へ参加し、本校の取組を地域に紹介した。&lt;○&gt;</p> <p>エ、「食とみどり」学科の「とりかいナス」の栽培で、摂津市との交流。「ナス」品評会で特別賞を受賞。&lt;◎&gt;</p> <p>(3) ア、新規職場開拓数として、約50社職場開拓。進路指導部を中心に昨年までの開拓企業の実習実施状況等の確認。&lt;○&gt; イ、本校生徒(32名)の就労率は80%を達成した。離職卒業生のアフターケアとして、進路指導部、旧担任が協力して、夏休み等を利用して進路先を回った。また、進路先から対応等で相談があるとすぐに対応した。&lt;○&gt;</p>
------------------------	---	--	--	--